

子どもフェスティバルに 新イベント登場!!

好天に恵まれた10月16日(日)、浜町総合スポーツセンター運動場にて開催された子どもフェスティバルに、スポーツ推進委員協議会が担当する新しいアトラクションが登場しました。

皆さん、いつもと違ういろいろなスポーツを体験されましたか?

『チャレンジ・ザ・スポーツ』

いろいろなスポーツを体験して、ポイントを得よう。自分自身も知らなかった才能を発見しよう!



ホームラン

バッティング・コーナー

バッティング・マシン相手にヒット何本?

イチローを目指せ!!



サッカー・シュート

グラウンダー・パスをダイレクトにシュート!

もう得点力不足とは言わせない!!



テニス・ショット

フォアでもバックでも狙いは外すな!

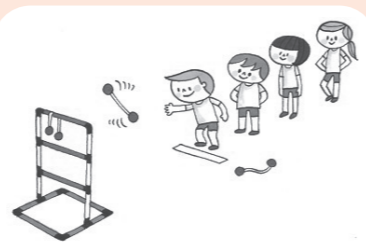
ネットを越えれば勝機が見える!!



チャレンジ・スポーツ (ニュー・スポーツ3種)

①ラダー・ゲッター

紐でつながれたボールを投げて、はしごのような的に絡ませて得点を競います。

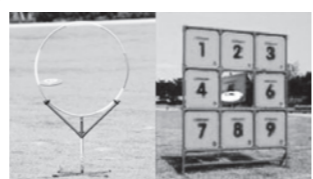


②ディスクゲッター・フープ

ドッチビー (やわらかいフリスビー) を投げて、丸い輪の形のネットを狙います。

③ディスクゲッター・ナイン

ドッチビーによるストラックアウト。1～9の番号のパネルを打ち抜きます。



(イラスト・写真: 公益財団法人 日本レクリエーション協会 HP より転載)



…最後は
麻袋でゴールまでピョンピョン!

あの巨大迷路がなくなった!!

昨年度まで、皆様楽しんでいただいた「迷路」は、諸般の事情により今回から新たな催し物(チャレンジ・ザ・スポーツ)に衣替えしました。この迷路の設計から材料の手配、設営、解体の段取りまで、すべての作業の中心だったのが、昨年度まで28年間スポーツ推進委員をされていた織田堅さんです。

そこで、迷路のそもそもの始まりから様々な苦労まで、思い出を綴って頂きました。世代を超えて中央区の多くの皆さんに親しまれてきた「迷路」の記憶とともに、記録として残しておきたいと思います。

～迷路の思い出～ 織田 堅

●迷路の始まり

私がスポーツ推進委員に委嘱された昭和63年に地下鉄有楽町線開通の祝いのイベントが月島運動公園で行われるはずが、雨天で中止となり、その催し物の中に小さな迷路がありました。それを見た当時会長の百瀬委員から子供フェスティバルで迷路を作れないかと相談され、私の仕事柄作れないとは言えず、その年から迷路作りが始まりました。

●組立ては一日がかりの大作業

設計図を描き数百本の木材等の材料を用意して大きさを合わせ、前日早朝から浜町グラウンドでの大変な組立て作業です。スポーツ推進委員やスポーツ仲間60人程の皆さんには一日大工さんになってもらい、釘袋にゲンノウを片手に長さ28.8メートル、横18メートルの大きな迷路を作ります。組立には危険が伴うので怪我の無いよう気を配り、柱一本に一人付き、私の「一・二・三」の号令に全員が意気をそろえ同時に柱を立てていきますが、中々そろわず声を高くすることもありました。組立てた後は倒れないよう筋違いを打ち、また迷路を面白くするために階段を図面通りに取付けていきます。さらに4～5人一組となりタッカーで布を貼っていくのも大仕事です。布を貼った後に迷路から出てくるのに迷った方もありました。



▲当日も迷路の出来栄に目配りする織田さん



▲柱を立てて布を貼る前の、迷路の骨組みの様子。貴重な写真です。

●終われば解体、これもまた大変

丸一日かけた重労働で組立てた迷路も、フェスティバルが終わって当日の3時ともなればすぐに取り壊しです。これも皆さんと心をひとつにし、一列ずつ掛け声をかけて倒していきます。せっかく一日がかりで作ったのもったいない、との声も多かったのですが、私としては、取壊しの最後まで怪我があってはならないと、そればかりに神経を遣っておりました。木材整理の後、グラウンドに釘やタッカー針などが落ちていないか、全員一列に並んで目を皿のようにしてごみを拾う清掃作業も一苦勞でした。

●読めないお天気、苦勞も喜びに

何よりこちらの思い通りにならないのがお天気の具合で、時には組立てた翌日大雨で中止となり、当時まだ土だったグラウンドが泥んこになる中で解体したこともありました。また、組立てた夜に台風が来たため夜中にグラウンドの確認に行き、布の外れた箇所を直すのに倉庫まで布を取りに行ったり、フェスティバル当日の朝に台風で倒壊している迷路を片付け、他の種目に変更せざるを得なかったりした事もありました。

思えば毎年設計変更にも思い悩む場面もあり、組立て作業だけでなく苦勞の多い出し物でしたが、途中、浜町グラウンドが改修工事で使えなかった3年間を除いて、通算25年にわたり毎年多くの子供たちに迷路を楽しんでもらえたことが、今となっては何よりの喜びです。